

徳島の屋外、全国の52人出品

ポスターでピカソ表現



色とりどりのポスターに見入る親子連れ（徳島市の県文化の森総合公園で）

画家パブロ・ピカソ（1881～1973）をテーマに、全国のグラフィックデザイナー52人が描いた屋外ポスター50点を並べた展示会「ピカソdeさかそ〜」が、徳島市八万町の徳島県文化の森総合公園シンボル広場で開かれている。8日まで。入場無料。

52人が思い思いの視点や手法でピカソを表現。2007年に同県で開かれた国民文化祭の総合ポスターをデザインした新島実さんは、白と黒を基調にした作品を展示した。ピカソの恋人からイメージを膨らませて描いた子どもの姿や、ピ

カソの目、顔など、色鮮やかな作品も並んでいる。

夫婦でポスター展を見に来ていた同県吉野川市鴨島町の高校教員田中和江さん（54）は「個性があって、色々なピカソに対する思いを感じる。視点も様々でおもしろい」と話していた。

隣接する同県立近代美術館は、ピカソの「ドラ・マールの肖像」「赤い枕で眠る女」の2作品や版画を所蔵。ポスター展示会のほか、8日には、ピカソを思い浮かべて川柳を作るワークショップが開かれる。